元の理～この世の原理原則～

※作成途中　©小林真

この世の事象・現象は、十全の働きで全て解くことができる。天然自然の理（表に現れる働き）と心の理（陰の働き）は密接に連動している。見聞きすることや身上・事情から、心の癖性分を悟り、自らのいんねん、運命を切り替えていくことができる。天の理を尽くせば、直ぐに現実は変わってくる。どうかこれを陽気遊山の道を歩む一助に。

見えない陰でひたすらに働き、ほこりや汚れを洗い流す澄んだ水の心。求めず、冷静で、広大な海の心。落ち着き、潤う心。物事の起点となる働き。遠い先を楽しむ心。「心（根）」もまた見えない働き。"目は心の窓"　眼は心根の現れ。

見聞きしたり、自分が経験する事象・現象は、時代や人によって変わってくる。大事なことはその事象・現象が、どういう理で現れたのか、そして自分はどういう理を尽くしていくのか、
自ら思案し、悟ることである。

物事の整理が付かない状態は、泥海のように混沌としていて面白くない。この世の元始まりも同様に混沌としていた。この図表を見て、この世が形成された一連の流れを思案し、どういう理合いを自らの心に治めていくかが大事である。これからは理合いを理解し、すっきりと心を澄ませることで、だんだんと陽気な道が開けてくる。
自ら勇んで通る道はやがて逞しい往還道へと続く。

くにとこたち不足時
（をもたり/母 強い時）：
熱中症、火事、火傷、
猛暑、熱帯夜、火山噴火
地震、砂漠化、乾燥、
ひび割れ、高血圧、
過緊張、不眠症
眼の身上 etc.

にをいがけの元。　心定めが全ての起点。

月　天　父　陰の働き　朝起き　陰徳の心

思いやりは水やり。

出直し(死)とは、着れなくなった衣服を脱ぎ捨てるのと同じこと。

天とは、普段見えない陰の働き。
心もまた目に見えない陰の働き。
天の理とは、見えない陰の働きの理のことであり、心の理のことである。

起点となって見えない陰で働き、低い方へ向かって落ちきる水の心

水のように冷静になって思い切り、物事が新たな楽しみへ転じ変わる。

左の役割　7分

①くにとこたち

体内：眼、潤い、心根、感覚神経
睡眠、副交感神経、体の70%水分
世界：水、雨、海、根、夜
地球の70%水分
宇宙の70%暗黒エネルギー

自分ではなく、相手や周りを立てる心。
自分の正しさや努力してきた部分、真面目な部分《紅葉》を一旦捨て《落葉》、平生は柔らかく"阿保"(ex.ボケ,いじられ役)、大事な局面では勢いよくつっぱる《裸木》。普段は相手や周りの緊張をやわらげ、明るく引き立てながら、大事な所で俊敏に足を運び、つっぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間との密接な連携が重要。落とした葉はいずれ養分となり、寒い冬を乗り越える為の自らの力へと変わる。

月　男

大事な所で勢いよくつっぱり
陰で周りを引き立て支える心

3分

⑥月よみ

体内：骨、男一の道具
世界：つっぱり支える働き
立てる働き、柱、立木、月
月の引力、潮の満ち引き
月経を促す

物事が治まる理。

天

仕切る働き。瞼を閉じて冷静に
思い切り、これから先を楽しむ心

7分

⑩たいしよく天

体内：出産時に親子の胎縁（臍の緒）を切り、出直し時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界：切ること一切
細胞分裂、食物の収穫

自分をまとう欲(泥)を捨ていんねんを切り替える。

十分に満ちた理

過剰（かしこね/男 不足）：
自暴自棄な所から風（言葉）通しが悪くなり、心が腐って、人間関係や交流を断ち切りすぎる状態。孤独、静寂、個人主義、そっけなさ、寂しさ、閉塞感
-仕切り 7割の加減-
不足（かしこね/男 過剰）：
恐れや執着から、割り切れず思い切れない為、先へ進めない状態。欲がある為、冷静になれず、瞼を閉じ切れない状態。踏み切れない、けじめがない。
切れ味が悪い、先案じ、不安、心配、保守的

→冷静になって思い切る。そして大きな希望を抱く。大志が天、つまり、陰の働きを良くする。

北
0時
冬至
夜

北西
21時
立冬

北東
3時
立春

過剰（くもよみ/女 不足）：
物事を十分に見定めず、自分都合で引き出そうとする為、不要なものまで引き出してしまう状態。お節介、ありがた迷惑、過度な親切心
-引き出し 3割の加減-
不足（くもよみ/女 過剰）：
欠点や至らない所ばかり目について十分に咀嚼せず、強引に優劣で判断し、隠れた長所や本質を引き出そうとしない状態。他人に対してなら見下す心（≒優越感）,自分に対してなら過度にへりくだる心（≒劣等感）差を嘲笑する心。威張ると胃が張る

→過剰＆不足：
良さを引き出せない為、実らない
無理が生じて嘔吐し伸びない

苦がなくなる。

時旬を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心

3分

⑨をふとのべ

体内：出産時に子を引き出す働き
身長,爪,髪の成長、思い出す,発明,閃き
世界：引き出し一切
引力、動植物の成長

婦

④いざなみ

女,苗代(環境)の働き
素直に受け入れ育む心

仕合わせ

陽気づくめの心

夫

③いざなぎ

男,種(元)の働き
まっすぐな堪能の心

みにつく

何もわざわざ言わなくていい。
流れに沿っていけばいい。

必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、老廃物は流す循環・順応の心

7分

⑦くもよみ

体内：嗅覚、味覚、、解毒、咀嚼、飲み込み、消化、吸収、排泄。
理解、記憶、(不要な情報を)忘れる
世界：水気循環, 溶解(分解,酵素)→蒸発(吸収,分離)→気体→雲(凝固,老廃物)→降雨,降雪(排泄)

過剰（をふとのべ/男 不足）：
強引に物事を受け入れようとして、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食状態。無理矢理、強制、咀嚼せず、味わわず、消化しない為、引き出せない。吸収できない。血肉にならない
本心で納得できない。物忘れの傾向。
-腹七分目-
不足（をふとのべ/男 過剰）：
苦労や痛み（苦味や臭味,辛味,酸味など）に過剰に反応してその意味（味わい）を悟らず、新たな節目や物事をうまく飲み込めない状態。拒食or偏食状態。新たな可能性を捨てて諦め、守りに入る心。好き嫌いや隔ての心。自分都合。
嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向

→過剰＆不足：曇り、どんよりした気分。気持ち悪い,違和感。物事が進まず,朝を迎えられない。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎えられない、無理な辛抱や我慢

西 18時 秋分 夕
夕つとめ

朝　春分 6時 東
朝つとめ

立秋
15時
南西

立夏
9時
南東

昼
夏至
12時
南

"苦"と"雲"は同じこと。

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
月は太陽に照らし出され、その美しさが引き出される。

地

湿気をひらひら乾かす、そよ風の働き。
八方に言って勇ませ、聞いて楽しむ心

3分

⑧かしこね

体内：息 ,呼吸、鼻で吸い(加温,加湿清浄) 口で吐く(冷暖房,加湿除湿)
声、言葉、耳、聴覚
世界：風,音,空気,大気

過剰（たいしょく天/女 不足）：
息（風）を切らない為に声が声（肥）にならず、ただしつこく風が吹く状態。暴風・台風状態。過度な大声や話がくどい状態。自分の声や意見が通らない。仕切れず風がしつこく吹く為、思い通りに動かず、叶わない。身動きが取れない。他人の意見を聞き分け、嗅ぎ分けできない。聞き耳を立てられない。音痴状態。肥（声）をやり過ぎ、乾き切ってしまい枯れた状態。
-風（言葉）3分の加減-
不足（たいしよく天/女 過剰）：
過度に仕切って風（言葉）通しが悪い為、心がじめじめと腐り、周りを勇ませない状態。口をつぐんだり、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、愛想尽かし切り口上、捨て言葉、誹謗中傷、湿気、陰気臭いしけた顔、ため息、息苦しい、虫がわく、カビ

言葉は命

優しく心地のいい風、言葉が生まれる。

日　地　母

陰の働きを有難く思い、
こみ上げてくるぬくみの心

3分　右の役割

②をもたり

体内：体温、活力、感情
交換神経、運動神経
世界：火、太陽、熱、光
昼

表に現れる働き

聞き上手が話し上手に。
勇み心を八方へ広げる。

物事が当たり前に思えてしまう状態

をもたり不足時
(くにとこたち/父 強い時)：
冷え性、悪寒、低血圧、貧血、極寒、大雨、大雪、洪水、津波etc.

感謝を言動へ、ひのきしん。

日　女

物事を慌てず柔軟に受け止めいつでも頭低く堪能で繋ぐ心

7分

⑤くにさづち

体内：皮膚、筋肉、血管系、リンパ管系、女一の道具
世界：柔軟な繋ぎの働き
縁、出会い

温かい心が消化・吸収・排泄を促し、物事の循環を生み出す。

あれこれ考えず阿保になる。
物事の繋がりを生む理。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。

ヒント！

【7分3分の均衡 と 二つ一つの理】
①くにとこたち：②をもたり=7:3
(愛や感動を覚えたとき,体温37°C)
④月よみ:③くにさづち=7:3
(7割は柔軟に繋ぎ3割つっぱる)
⑦たいしよく天：⑥かしこね=7:3
(声は息を7分切るから鳴る)
⑤くもよみ：⑧をふとのべ=7:3
(腹七分目が生きる力を引き出す)
⑨いざなぎ：⑩いざなみ=1:1
(男も女も誠実に足並み揃えて)

見聞き、経験する事象・現象をじっくり柔軟な心で受け止め、どんな時でも阿保になって喜び、つなげる心。不平不満は繋がらない。見聞き,経験する中に自らのいんねんが分かり、自分の心遣いを切り替えていく時、陽気遊山に向かう新たないんねんに寄せられ、頼もしい繋がりが生まれてくる。そして相手や周りを張り切らせることができる。

陰の働きを有難いと思えた理。そこから自然と湧き出るぬくみの心。人を温かい優しさで包み、喜ばせる心。絶え間なく灯し、与える心。ゆったり安心させる心。柔らかな笑顔たっぷり。明るさ。見える働き。大きな連鎖を生み、物事が始まり動き出す心。

心のほこり(※毎日払い,人にほこりを積まさぬよう)
おしい、ほしい、かわい、よく、こうまん
にくい、うらみ、はらだち、嘘,追従(心言動の一致)

挨拶は風の働き。
自ら吹かそう。

声は肥。人に合わせて柔軟にかける言葉は変えよう。

✉ makoto.youkiyusan@gmail.com